# 被災地で活躍する市民の力

## ～がんばろう！がんばっぺ！いわき

6月4日から7月9日までの土曜6回、東日本大震災で被災した福島県いわき市に、前橋市社会福祉協議会ボランティアセンターを通じて災害救援のための市民ボランティアを派遣しました。ここでは、7月2日の活動の様子をお伝えします。

問い合わせは　いきいき生活課　☎898－6510

右／側溝からはがれきの山が
左上／泥をかき出すボランティア
左下／津波で被害を受けた家屋

### 待っていたのは信じ難い光景

7月2日午前5時、市民ボランティアを乗せたバス4台が本市を出発しました。向かったのは福島県いわき市平豊間。鳴き砂の名所として有名な豊間海水浴場がある地区です。

バスがいわき市に入ると、道路の隆起や屋根の損壊が所々に見受けられるようになります。そして作業場所に到着したボランティアを待っていたのは、それまでテレビなどでしか見たことがない信じ難い光景でした。そこには津波によって柱や壁、扉が流された家が並び、被災した時から時間が止まっているかのようでした。

### 側溝から出てきた「日常」

今回の作業は民家の脇を流れる側溝の泥のかき出しと、その周辺のごみ拾い。長靴やマスクなど準備を整え、現場に向かいました。側溝内は汚泥がたまっているため黒く濁り、水は流れず滞留しています。参加者はその中に入りかき出しを始めました。

側溝内の泥は固まっていてスコップがなかなか入らず、思うように作業が進みません。何度も突いて崩しながらすくい上げます。また、泥以外にもさまざまな物が出てきました。瓦や柱などの家の損壊部分や、おわんや鍋、やかんといった生活用品、トロフィーなどの家族の思い出の品など、3月11日までの日常がそこにありました。

### 懸命な作業で水に流れが

作業は小まめに休憩を取りながら進められ、昼食を挟んで午後まで行われました。午後になると気温が上昇。体力を奪われる厳しい作業となりましたが、滞留していた水が流れ始め参加者にも達成感が生まれました。

作業場所付近に暮らす人が話してくれました。

「津波で家は床上1㍍以上浸水し、建物は無事でしたが家電の大半は壊れました。近所の人も避難したまま戻ってきていない人も多いです。正直言って、これからどうしていいか分かりません。でも、こうしてボランティアに来てもらって少し力をもらえた気がします」

### 長期的に支援を継続

本市ではこうした市民ボランティアのほかにも、来年3月31日㈯までいわき市へ職員を派遣。復旧・復興に関する業務に従事し、全力で被災地をサポートしていきます。

被災地の復旧・復興には長い支援を必要としています。これからも市民の皆さん一人一人にできることでの協力をお願いします。

### たくさんのボランティアに感謝しています

いわき市社会福祉協議会
地域福祉課課長　篠原洋貴さん

いわき市は沿岸部で特に被害がひどく、今も多くの人が一時提供住宅や避難所での生活を送っています。家屋の片付けや側溝にたまった泥のかき出しなど、人の力でしかできない作業に、多くのボランティアの人に来ていただけたのは本当に助かりました。おかげさまで時間がかかると思われていた作業が、予想よりも早く終えることができそうです。

前橋市の皆さんには助けていただき、本当に感謝しています。これからも、いただいた力と合言葉「がんばろう！がんばっぺ！いわき」を胸に、復興に向けて頑張っていきます。皆さんには、被災地の商品を購入したり、復興した被災地を訪れたりといった方法で、長期的な支援をお願いします。

## ボランティア参加者

### 被災地のために何かをしたかった

小山行男さん　62歳
（下長磯町）

ずっと被災地の役に立ちたいと思っていたので、募集を知ったときは、すぐに全回参加することを決めました。作業場所は、汚れや臭いがきつかった所もありましたが、苦には感じませんでした。復旧したら、家族を連れて作業した場所を訪れ、復興に貢献していきたいと思っています。

### これからもずっと応援していきたい

綿貫清香さん　25歳
（日吉町）

今回、被災地に来てみて、目の前に広がる信じられない光景に衝撃を受けました。作業は大人数で行いましたがなかなかはかどらず、復旧の難しさと大変さを感じています。これからもずっと応援し続けていきたいと思っていますので、被災者の人たちにはあきらめずに頑張ってほしいです。

### 地道な作業を誰かがやらなければ

柴崎英也さん　34歳
（上佐鳥町）

妻が何度か福島県を訪れたことがあり、参加に当たっては背中を押してくれました。作業は地道ですが、誰かがやらなくてはならない。そう思うと、少しは被災地のために役立てたのかなと思います。これからもボランティアはもちろん、ほかにも自分にできることは何でもしていこうと思います。